

1 何も指さない、あるいはその程度が弱い it

この章では、「本書の約束事」の4) (p.013) でふれた it の使い方、すなわち「**ダミーの it**」についてお話しすることにします。

英語には「**ダミーの it**」と呼ばれる用法があり、この it は**特に意味がなく文中で文法的な機能を果たしています**。例をあげましょう。

- What time is **it**?
「何時ですか」
- **It** is time that we left.
「もう出かける時間です」

これらの文では、it が何を指しているのかわかりづらいでしょう。一方で、it には、おおまかな、**特にどれと決まっていな**い状況を指す意味もあることがわかります。例を示します。

- **It** is going to rain today.
「今日は雨が降るでしょう」

これを The situation is that today rain will fall. (今日は雨が降る状況です) と言い換えることができますが、ごちない文となってしまう。

もう一例あげます。

- We finally made **it** to the summit.
「やっと頂上にたどり着いた」

この it が何を指しているのかもわかりづらいですね。一方、次の例ではどうなるでしょう。

- I do not know if I can make a go of **it**.
「うまくやれるかどうかわかりません」

この it は、会話の中ですでに具体的に、あるいは、それとなく言及されていることを指すと理解することができます。例えば、上の文では it が指すのは my new job (私の新しい仕事) のようになります。

これらの2つの例は次のように呼ぶことができます。

- 最初の例: it = 非参照 (特に何かを指すわけではない) の it
- 2番目の例: it = 参照の度合いが弱い it

2 things を使用できる場合

it の代わりに things を使用できる場合もあります。この things を it 同様「何も指さない、あるいはその程度が弱い things」と呼ぶことができます。これに何らかの文法上の規則があるかどうかはわかりませんが、**it がある程度具体的なものであれば、things に置き換えられることもある**ように思います。これについては次項の例の中で説明しています。“>> things”がついているものがそれです。

